

問題を作る前に、うめる1枚

この紙のゴール：大問の型・観点・配点・素材を先に決めてから作問に入る

作問の順に問題を作ると、配点は前半の語彙・文法に寄り、観点の比率は作り終わってから数えるものになります。この紙を先にうめると、作問は穴うめになります。

このテスト

実施日	
科目・学年	
範囲	
満点	
試験時間	

大問構成 問題を作る前に、ここをうめる

大問	型（何を出すか）	観点	配点	素材	想定時間
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

素材の欄は「教科書／初見／図表／音声」を書きます。思考・判断・表現の大問に「教科書」が並んだら、そのテストは記憶を測っています。

集計 数字はすべて「めやす」です（学校の方針で動きます）

知識・技能の合計		満点の40～50%がめやす
思考・判断・表現の合計		満点の50～60%がめやす
初見素材の割合（読解の中で）		半分以上がめやす
想定時間の合計		試験時間の8割まで（見直しの時間を残す）

記入例

記入例（英語コミュニケーションⅠ・100点・50分）

大問	型（何を出すか）	観点	配点	素材	想定時間
1	語彙（意味・つづり）	知技	10	教科書	4分
2	適語補充（既習の文法）	知技	15	教科書	6分
3	語順整序	知技	10	教科書	5分
4	本文の内容一致（既読）	知技	10	教科書	5分
5	初見英文の読解（大意・推論）	思判表	20	初見180語	10分
6	図表つき実用文	思判表	15	初見＋表	7分
7	自由英作（意見文60語）	思判表	20	初見の論題	10分

知識・技能45点／思考・判断・表現55点／初見素材は読解の3大問中3つ／想定合計47分（試験50分の94%—ここは少し詰めすぎて、大問6を12点に落とすと収まります）

作問前チェック

- ☐ 最初の大問は、全員が手を動かせる易しさから始めているか
- ☐ 記述・英作の採点基準を、作問と同時に書いてあるか（あとで書くと甘辛が生まれます）
- ☐ 初見英文の語数を数えたか（読解1題あたり150～200語がめやす。長いと読解ではなく速度のテストになります）
- ☐ 平均点の見当をつけたか（作問者が解いて、かかった時間の2倍が生徒の所要時間のめやす）
- ☐ 解答用紙の記入欄は、書かせたい量と同じ大きさか（英作の欄が小さいと、それだけで語数が減ります）
- ☐ 同じ問題を来年も使うつもりなら、初見素材の出典を記録したか

返却のあと

次のテストの材料は、採点中に見つかる

- ・返却時は、観点ごとの平均を出して見せる（合計点だけでは、何を直せばいいかわかりません）。
- ・思考・判断・表現が低いクラスは、教材ではなく初見に触れる回数が足りていないことが多い。帯活動に初見読解を1枚入れると、次の回で動きます。
- ・採点していて迷った答案は、次の作問の材料です。迷った理由を設問の横にメモしておくと、翌年その設問が直ります。

テストビルダー

テストビルダー（高校版）は、大問を選ぶと観点別の配点比をその場で集計し、教師用ページに設計表を作ります。この紙は手作りのテストを設計するときと、ビルダーで作った1枚を点検するときに使ってください。

